

# 稲作管理情報 第3号

平成23年6月25日  
高岡市農業協同組合  
高岡農林振興センター

うるち玄米1等比率90%以上を目指して！

カメムシ対策は  
草刈りから！

草刈り運動期間：7月1日(金)～7月10日(日)  
一斉草刈り日：7月2日(土)・3日(日)

※畦畔やほ場周辺の雑草地の草刈りを行い、斑点米の原因となるカメムシの生息場所を減らしましょう。

## ① てんたかくの生育状況

生育は近年並みに推移しています。田植時期によってほ場間差があるので、必ず生育を確認しましょう！

	田植日	草丈 (cm)	茎数(本)		葉齢 (葉)	葉色
			株あたり	m <sup>2</sup> あたり		
H23	5月4日	45.5	30.1	588	10.3	4.4
H22	5月5日	49.0	30.2	567	9.9	4.4
近年	5月4日	45.0	30.8	571	10.2	4.4

※JA 高岡管内調査ほの平均

## ② てんたかくの穂肥

### 【分施肥系の場合】

穂肥の施用時期と施用量(10a 当たり、追肥化成3号使用の場合)

施用時期		砂壤土	壤土(洪積)	粘質土
1回目	・幼穂長が2mm ・葉色(葉色板)が4.0～4.5	10kg	10kg	10kg
2回目	1回目から10日後	15kg	12kg	10kg

5月5日植えの場合、7月1日頃が一回目の穂肥時期(幼穂長が2mm)と予想されます。



幼穂  
確認!

※葉色が濃い(4.5以上)場合 ⇒ 茎数も旺盛(30本/株)な場合、1回目穂肥を2～3日遅らせましょう。

※葉色が薄い(4.0を下回る)場合 ⇒ 砂壤土のほ場の場合、1回目穂肥に追肥化成3号を13kg/10a程度施用しましょう。

### 【基肥一発肥料施用体系の場合】

・基本的に、追肥は必要ありません！

→ただし、葉色が極端に薄い(4.0を下回る)場合、追肥化成3号を7kg/10a程度施用しましょう。

## ③ てんたかくの防除

～適期防除で斑点米の混入を防ぎましょう！～

### 【防除薬剤の散布時期と散布量】

粉剤	散布時期	農薬名	散布量(kg/10a)
	1回目 穂揃期(7月末頃)	ビームスタークル粉剤5DL	4kg
	2回目 傾穂期(8月上旬)	キラップ粉剤 DL	4kg

※風のない時に散布するなど農薬飛散防止に努めましょう。

粒剤	散布時期	農薬名	散布量(kg/10a)
	ほ場の1割程度の穂が出た頃	スタークル粒剤	3kg

※野菜等の専用畑や市街地が近くにあり、農薬飛散が懸念される場合には、粒剤を使用しましょう。

### ◇紋枯病対策◇

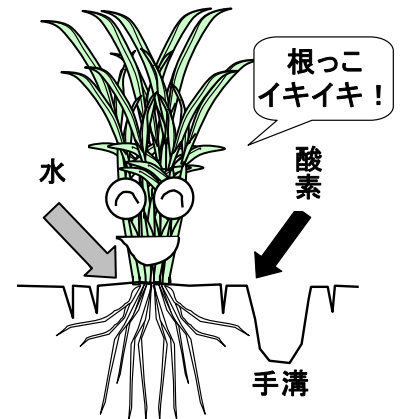
ブイゲットアドマイヤーリンバー箱粒剤には紋枯病の予防剤が入っていますが、多発生が懸念される場合、穂ばらみ期に防除を行いましょう。農薬についてはJAにご相談ください。

裏面には 重要なお知らせ があります。



## 中干し後は間断かん水を行いましょう！

→根に酸素と水を交互に供給し、根の活力を高め、茎や葉を健全にします。



### 溝掘り・中干しは確実に！

・中干しが不十分なほ場では、田干しを行い、確実に仕上げましょう。

・溝が崩れている場合は、手直しを行いましょう。

※田面に小さなヒビが入り、長ぐつの跡がつく程度まで干しましょう。



・いまのうちにしっかり地固めしておけば、出穂後20日間湛水しても、収穫作業がスムーズにできます！

コシヒカリの穂肥については、次号でお知らせいたします。